

# KT師重賞本命と見解

## 香港国際競走

### 香港ヴァーズ

2016年以降で日本馬は2勝、2着2回、3着1回。2019年は1、2着。  
このレースを好走した日本馬は2400mよりも長めの距離で実績のある馬が目立つ。  
2012年に10番人気2着と穴を出したジャガーメイルは天皇賞春の勝ち馬。  
2019年に1着のグローリーヴェイズは天皇賞春の2着馬。  
2018年2着のリスグラシューも後に有馬記念を圧勝。

ダルシャーン、ブラッシンググルーム、トニービンなど  
欧州型のナスルーラ系の血を持つ馬と相性が良い。  
欧州血統のなかではフランス寄りの末脚の伸びに優れた血統が向いている。

なお、JRAのステイヤーは欧州型ナスルーラのトニービン持ちが多い。  
これもJRAのステイヤーが当レースに相性の良い理由。

本命はグローリーヴェイズ。

一昨年の当レースは圧勝。その当時よりも明らかに楽な相手関係。  
母系にノーザンテーストを持ちメジロ牝系。  
加齢による衰えの心配ない血統。人気でも逆らえません。

モーグルは昨年の当レース圧勝。  
イギリス生産、アイルランド調教ながら、G1勝ちフランスと香港。  
末脚要求されるレースも得意で、ガリレオ産駒のなかでも素軽さがあるタイプ。  
フランケル(ガリレオ×デインヒルの組み合わせが同じ)に近い。

ステイフーリッシュは父がこのレースも制しているステイゴールド。  
エペイラは当レースとも相性良いフランス調教馬。  
パイルドライヴァーは母父がブラッシンググルームの系統。

フランスの名種牡馬ルアーヴル。

◎2 グローリーヴェイズ

○5 モーグル

△4 ステイファーリッシュ

△8 エベイラ

△1 パイルドライヴァー

## 香港スプリント

出走比率では大多数を占める

オセアニアの主流系統である父ダンチヒ系の相性がさほど良くない。

昨年も出走 14 頭中 9 頭が父ダンチヒ系。

しかし、1 着から 3 着まで父が非ダンチヒ系。

人気薄の 2 着馬、3 着馬はどちらも父がザビールの系統。

2019 年の 2 着馬もザビールの系統。

2018 年、2017 年と人気薄で 2 着に好走した

ディービーピンは父ダンチヒ系だが、父母父がザビール。

日本馬でこのレースを 3 着以内に好走したのは

ロードカナロア、ストレイトガール、ダノンスマッシュ。

いずれも父系は非ダンチヒ系。

ロードカナロアは東京芝 1600m で G1 勝ち。

ストレイトガールは東京芝 1600m の G1 で 3 着、後に 1 着。

ダノンスマッシュは東京芝 1400m の G2 勝ち。

単なるスプリンターではなく、

芝 1400m 以上の直線が長いコースでも実績があった馬。

本命はクーリエワンダー。

父は非ダンチヒ系。母父がザビールの系統。当レースの成功配合。  
香港の名門ジョンサイズ厩舎の管理馬。当レースでは毎年のように  
好走馬を出していて、2017年と2019年は1、2着。  
2017年、2019年ともに前哨戦で負けていた馬を連対させているように、  
レース代わりに調教を使い、ここに仕上げるノウハウを持っています。

ピクシーナイトは父が香港でも2勝のモーリス。  
直線が長い芝1600mの重賞を勝っている戦歴も良く、  
1200mでは末脚の伸びにも優れた馬。香港の適性も高いタイプ。

レシステンシアは母父がデインヒルの系統。  
父もアドマイヤマーズを出していて、香港適性も高い血統。  
芝1600mの直線が長いコースでもG1を勝っている馬。  
人気の日本馬はどちらも前走以上に向いています。

◎11 クーリエワンダー

○2 ピクシーナイト

▲12 レシステンシア

△5 ラッキーパッチ

## 香港マイル

2015年以降で日本馬は2勝、2着1回、3着1回と好成績。  
直線スピード勝負では世界最強のサンデー系が走りやすいレース。

過去にはエイシンプレストンもそうだったように、  
このレースで実績を残す日本馬はマイラーというよりは中距離指向。

エイシンプレストンは毎日王冠勝ち。  
モーリスは後に天皇賞秋勝ち。  
ヴィブロスは秋華賞勝ち、ドバイターフを圧勝。  
アドマイヤマーズも共同通信杯2着、皐月賞でも善戦。

JRAの芝1600mのG1に比べると道中のペースが緩く、  
タメて直線で伸びることが要求されるため芝1800m以上、

特に東京芝 1800m のような適性が要求されます。  
だからこそ中距離の伸び勝負で世界一のサンデー系が強いのです。

昨年の勝ち馬ゴールデンシックスティも父メダグリアドーロがエルプラドの系統。  
エルプラドの系統は日本での芝重賞勝ちは全て芝 1600m 以上の直線が長いコース。  
東京芝 1800m の重賞も勝っています。

本命はダノンキングリー。

毎日王冠勝ち。東京芝 1800m の重賞で何度も連対しているディーパインパクト産駒。  
海外馬とはレベルが違う中距離の伸び。  
今年は安田記念を勝ちましたが、珍しくスローペース。  
中距離指向のレース質に恵まれた面も。  
より緩い流れになり、伸びが要求される香港のマイルは今のこの馬にはベスト。  
萩原厩舎も香港遠征で実績あり。

サリオスは母母父が香港適性高いデインヒルの系統。  
毎日王冠勝ち馬。堀厩舎は香港で抜群の成績を残しているのも強調材料。  
ハーツクライ産駒の G1 馬は 4 歳秋から復活するパターンも多いです。

インディチャンプは 2019 年に 7 着と凡走しましたが、  
当時は毎日王冠を使い、マイル CS を 1 着後の秋 3 戦目。  
適性よりも状態の問題が大きかったはず。  
今年はマイル CS が 4 着で、秋 2 戦目。まだ余力あり。

ヴァンドギャルドは前走惨敗もレース前から指摘したとおり、  
BC マイルはスプリント指向強く適性が全くありませんでした。  
中距離指向でディーパインパクト産駒も走りやすい当レースなら巻き返しも。

◎2 ダノンキングリー

○6 サリオス

△3 インディチャンプ

△7 ヴァンドギャルド

△1 ゴールデンシックスティ

## 香港カップ

2015年以降で日本馬が4勝、2着3回。3着も2回。2015年と2020年は1、2着。ディープインパクト産駒もエイシンヒカリ、ステファノスと複数の馬が好走。香港国際競走のなかで日本馬が最も高い適性を示すレース。同じコースで行われるクイーンエリザベス2世カップも日本馬が過去に6勝と抜群の相性。今年は1着から4着まで独占。

日本馬以外でも2017年1着タイムワープ、2018年1着グロリアスフォーエバーは父が日本でも主流系統のキングマンボ系。

本命はヒシイグアス。

父母父トニービン。母母父はブラッシンググルームの系統。欧州型のナスルーラを持ち、香港の中距離と相性が良い血統。堀厩舎は香港で抜群の成績。同じトニービン持ちのジャガーメイルでも香港G1を超大穴で2着。

ラヴズオンリーユーは既に海外実績十分で、当コースでも春に勝利。実力、適性とも最上位ですが、やや過剰評価。他の日本馬との差はオッズほどではないはず。

レイパパレは母父が米国型ノーザンダンサー系のディープインパクト産駒。脚質的にもエイシンヒカリのようなイメージで、このレースの適性も十分。

日本馬以外ではドバイオナー。父がマキャベリアンの系統。母母父がキングマンボ。アイルランド生産、イギリス調教馬ながら、日本の芝中距離G1でも好走できそうな血統構成。フランスで実績があることも、香港の中距離では強調材料。

◎4 ヒシイグアス

○12 ラヴズオンリーユー

▲11 レイパパレ

△8 ドバイオナー

## カペラステークス

昨年 1 着のジャスティンは父オルフェーヴル。  
2 着のレッドルゼルは父ロードカナロア。  
砂のスプリンターよりも芝の要素。  
芝スプリントの要素が入る血統馬が走りやすいレース。

本命は 6 スマートダンディー

芝要素なのに、父エンパイアメーカー？となるかもしれませんが  
エンパイアメーカー産駒は JRA の砂競馬重賞は、ほぼ実績なし。  
芝のほうが重賞勝ち馬を多く出しています。母も芝実績馬を出しています。  
芝スタート。芝指向の血統馬が走りやすい当レース向きの血統。  
土曜好調だった父ミスプロ系。母父は今年の勝ち馬と同じゴーンウェスト系。

## 阪神ジュベナイルフィリーズ

阪神 JF は特にノーザンファームの育成馬が圧倒。  
過去 4 年の連対馬 8 頭のうち 7 頭が同牧場。

今年のノーザンファーム生産馬で  
芝の 2 歳戦にて最も勝ち星を上げている種牡馬はハービンジャー。  
2 番目に勝ち星を上げている種牡馬はディーピンパクト。  
3 番目がドゥラメンテ

ノーザンが、その世代で力を入れている種牡馬の産駒を順当に評価。

本命はバルクレスト。

父ドゥラメンテ。今年の産駒は2世代目で、  
育成も出来も大幅に上昇。姉はヴィクトリアマイル勝ち馬のアドマイヤリード。  
姉は気性が繊細すぎて、体重が小さく早い時期から完成させるのは難しかったですが、  
ベルクレスタは気性もおっとりしていて馬格も十分。  
2歳戦から潜在能力を発揮しやすいタイプ。

土曜の馬場がキングマンボ系が続々と走ったこと。  
体重の大きいパワー型が当レースも今の馬場にもフィットしていることも強調材料。

同様の評価がハービンジャー産駒のナミュール。  
ただ、こちらは断然の1人気になってしまったので馬券妙味で対抗に。

ステルナティーアは2歳G1で重要な速い経験がない人気馬。そこがどう出るか。

相手妙味はディーブ産駒のパーソナルハイ。  
G1レーシングの母体、追分ファームも今年の2歳育成は好調。  
ノーザンのノウハウが入ってきていることも大きいのでは。